

## 第7回多摩区区民会議

日時 平成26年3月17日（月）18：00

場所 多摩区役所 11階会議室

出席者：委員・・・安倍修司、荒井精一、石橋吉章、岩崎宏政、大津努、国保久光、小塚千津子、辻野勝行、戸高仁子、西山英子、配島裕美、藤原司、細埜隆己、本多正典、松本英嗣、吉田輝久

：参与・・・井口参与、河野参与、露木参与

：区役所・・・池田区長、土谷副区長、区民サービス部：高橋部長、保健福祉センター：林所長、石戸副所長、こども支援室：池田室長、道路公園センター：浅井所長、危機管理担当：森田課長補佐、総務課：布川課長、企画課：門間課長、井川担当係長、飯塚担当係長、奈良職員、澤野職員

傍聴者：2名

## 第7回 多摩区区民会議

日 時 平成26年3月17日（月）午後6時

場 所 多摩区役所 11階会議室

午後6時開会

### 1 開会挨拶

司会 委員の皆様、お集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたので、委員長、よろしくお願ひします。

大津委員長 それでは定刻でございますので、第4期多摩区区民会議の第7回区民会議全体会を開催いたします。よろしく御審議をお願いいたします。

議事に入る前に、事務局側から注意事項、あるいは資料の確認等ございましたら、お願いいたします。

事務局 それでは、事務局から会議公開について説明させていただきます。区民会議は本市の審議会等の会議の公開制度が適用される会議に該当しています。したがって、本日傍聴及びマスコミの取材を許可しておりますので御了承ください。

なお、本日の傍聴者の方々へのお願いでございますが、受け付けの際にお渡ししました注意事項をお守りくださいますようお願いいたします。また、会議につきましては、会議録を作成し公開することとしておりますので、会議終了時まで録音させていただきますので御了承ください。

なお、区役所の記録及び市政だよりや区ホームページなどの広報用としまして会議の様子を写真撮影させていただくことがありますので、御了承くださいますようお願いいたします。

次に、会議資料の確認をさせていただきたいと思ひます。まず、「第4期多摩区区民会議第7回区民会議次第」がございます。1枚めくっていただきますと、資料1としまして、第4期多摩区区民会議委員名簿、資料2としまして、多摩区区民会議座席表、資料3としまして区民会議スケジュール。別冊になりますが、分厚いA4の「第4期多摩区区民会議報告書」、薄めの「第4期多摩区区民会議報告書〈概要版〉」、以上となっております。

資料の不足等はございますでしょうか。

大津委員長 各委員におかれましては、今、事務局の御説明がございました資料の欠落、事前送付もございました、きょうの席上配付もございますが、よろしゅうございますか。

### 2 議 事

第4期区民会議の報告について

- ・コミュニティ部会
- ・自然災害部会

大津委員長 それでは、足かけ2年近くにわたって、審議、協議を重ねてまいりました内容が、きょうお手元の報告書にまとまっております。2つの専門部会長からそれぞれの報告書の内容、その中にはフォーラムにおける区民の意見等も織り交ぜながら御報告をお願いしたいと思います。

最初に、コミュニティ部会、辻野部会長から報告をお願いいたします。

辻野委員 それでは、大津委員長から指示がありましたので、早速、第4期コミュニティ部会としての区長への提言、今皆さんのお手元にありますように、区民会議報告書と、その概要版の2つが完成いたしました。今回は多摩区民会議報告書に沿って内容について皆さんに説明させていただきます。

それでは早速第1点ですが、まず1ページの目次から見ていただいて、私どもコミュニティ部会では、「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」というテーマのもとに、13ページから28ページまで、1、取組の背景について、2、市・区を取組との関連、3、審議の方向性、4、審議経過、5、区民会議からの提言という5つの大項目で構成して提言をまとめました。

続いて第2点ですが、報告書の3ページ、この提言に至る経緯を報告書のとおり報告いたします。3ページにコミュニティ部会のメンバー、大津委員長から松本副部会長まで10名のメンバー、それに石橋副委員長が常時出席していただきながら、この報告書をまとめました。

次の第3点が、4ページから5ページ、ここではコミュニティ部会の審議経過、部会、全体会議、フォーラム等が俯瞰図の形で掲載されています。コミュニティ部会は、12月5日の第1回から平成26年2月26日の第11回、そして11月23日区民会議フォーラムを含めて12回、コミュニティ部会全ての進捗状況については、平成25年2月12日から平成26年11月12日の全体会議で報告させていただいています。審議の進捗状況についての詳細は、第3回から第6回の全体会議でも報告済みでありますので、今回は報告書のまとめの骨格、あるいは熟議、推敲を重ねての文章の構成、その流れとポイントについて報告いたします。

それでは早速、第4点、6ページ、地域課題の把握と審議課題の選定ですが、まずコミュニティ部会としては、多摩区の現状からその課題、背景等について、それを把握するために、当初部員のブレインストーミング形式で議論して、それを整理してまとめたのがここの一覧表です。No.1からNo.11までまとめて掲載しています。

このプロセスを経て、この現状から浮き彫りになった取り組み課題・選定されたテーマが、11ページ、(1)コミュニティ部会として、「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」が選定されました。

いよいよ私どもコミュニティ部会の本題、「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」ということについての審議テーマの本題が13ページになります。

取り組みの背景という形で、今までのブレインストーミングを整理した状況、選定の経緯から、多摩区の現状を読み解くと、隣は何をする人ぞ、孤立感きわまる多摩区の課題が浮き彫りになって、向こう三軒両隣のような緊密な関係をどうしたら築けるのか、それを解決する鍵はという議論の結果、取り組みの背景について、現状と課題という形でその詳細をここに記述させていただきました。

現状と課題のまとめに沿って、取組テーマと目標という形で、①テーマとして「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」、②目標として、ア、地域の活動やイベントに参加してもらいしかけづくりに取り組む、イ、地域コミュニケーションの再生をはかるという2つの目標が浮かび上がってきました。

これを受けてビジュアル化したのが、下段のような図表で整理してこの報告書に掲載させていただいております。

次の市・区取組との関連は、当初打ち合わせがあって、行政としてもこういうことをやっているよという部分のことで、コミュニティ部会の背景、位置づけの関連ということから、この資料も添付しているということです。これはさっと目を通していただいたら結構です。

次に、16ページ、17ページ、審議の方向性。テーマである「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」という形の多摩区の特性を生かした区民のふれあいづくりが絆を育む原点だという認識から、（１）地域の活動やイベントに参加してもらいしかけづくりに取り組む、17ページの（２）地域コミュニケーションの再生をはかるという2つの視点からアプローチを検討していったということでございます。

その検討を重ねた結果、審議の方向性として、16ページの（１）地域の活動やイベントに参加してもらいしかけづくりに取り組むでは、①ふれあいの機会に関する情報について、この方向性は、祭事・行事情報を周知する。②ふれあい活動の実施及び実施状況について、この調査を審議した点では、趣味活動の実施と既存実施活動を周知する。③出会いから絆づくりへと進める工夫についてという形で、目指す方向性は、健康・食育をテーマとする活動を展開するという形でまとめました。（２）地域コミュニケーションの再生をはかるという点では、目指す方向性を、気軽にあいさつを交わす運動展開をするという形でまとめました。その行間に書いてあるのが、ここに至る詳細な文言を紹介しています。

そういう流れの中で18ページの審議経過ですが、ここについては、第1の提案の地域の活動やイベントに参加してもらいしかけづくりに取り組む、あるいは第2の地域コミュニティの再生をはかるという部分ですが、この18ページから26ページについては、全体会議でも進捗状況を常時皆さんに報告させていただいているので、ダブる部

分は説明を省きます。ただ、フォーラムの部分は皆さんにまだ報告されていないので、レビューを兼ねて、今までの全体会議で報告済みですが、フォーラムの部分について項目だけ触れます。

18ページ、祭事・行事情報の周知という点では、イベントカレンダーの作成。多様な趣味にふれ合える仕掛けづくりは、22、23ページ、健康、食育の切り口から地域の絆が生まれる仕掛けは25ページに、今までの報告を詳細に掲載しています。そして、地域コミュニケーションの再生を図る、気軽に挨拶運動を展開するは、26ページに詳細が載っています。

既に逐一全体会議等で報告した内容ですが、11月23日の区民会議フォーラムで、ワークショップ形式での区民の皆さんからの各項目への意見、あるいはアイデア、熱い思いをまとめて整理しました。

イベントカレンダー等については、21ページに多摩区区民会議フォーラムでの意見という形で、イベントカレンダーの効用、イベントカレンダーの発行手法・回数、イベントカレンダーの見せ方、イベントカレンダーの発行の留意点という形で、区民の皆さんの意見を掲載させていただきました。

趣味による触れ合いの機会創出という部分では、24ページに多摩区区民会議フォーラムでの意見。ここでは一言触れさせていただきますと、触れ合い機会の創出では、市民館でのシミュレーション等をやりましたけれども、その中で、こういう問題については、定期的で開催されているものがあればイベントカレンダーと融合して一緒に情報発信していただいたほうが、よりわかりやすいし、参加しやすいのではないかと意見も出たので、提言の段階でここは融合させていますので、一言だけ触れさせていただきます。

あいさつ運動に関しては27ページにまとめています。フォーラムでの意見は、あいさつの現状、あいさつを進める手法、あるいは、多摩市民館主催の子ども区民会議の子どもたちの意見等を参考に掲示しております。

こういうことから、祭事と行事を組み合わせる周知徹底を図るという触れ合いの問題については、提言書の段階では、この2と3を1つにまとめてシンプルに1本化した形で提言書にまとめる方向で文章を形成しました。

以上、審議経過等について報告しましたが、コミュニティ部会からの提言という形では、まとめとして28ページ、今までの1から4の調査・審議を踏まえて、「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」という取り組みを推進するために、区民会議から、「地域の活動やイベントに参加してもらうしかけづくりに取り組む」、「地域コミュニケーションの再生をはかる」という2つの提言を行います。

提言1として、地域の活動やイベントに参加してもらうしかけづくりに取り組む。これでイベントカレンダーの作成。そして、趣味とか触れ合い機会を創出するという

面では、子ども文化施設の設備、あるいは市民館でシミュレーション等を行いましたけれども、この部分について、イベントカレンダーには趣味活動を行っている施設活動内容などの情報の掲載も検討するという形で、この2つを融合させて1つの提言としてまとめています。

次に、健康・食育をテーマとする活動の支援。これは多くの区民が関心を持っているため、既存のさまざまな活動に対して、このテーマに関する話し合い、ワークショップなどの活動を組み込む支援を検討するという、提言1の取り組みです。

提言2について、地域コミュニケーションの再生をはかるという点で、あいさつ運動の展開を提言として、気軽にあいさつし合うという形で、区内で出会った人々が元気にあいさつを交わし合う運動を展開する。例えば区内のさまざまな団体、組織、集団の実態に合わせ、あいさつ週間、あいさつ月間、あいさつ標語、川柳、ことわざづくりの募集など、挨拶が積極的に楽しく行われるような運動の推進を図るという2つの提言にまとめております。

私の提言書の報告は以上ですが、最後に、2年間にわたりまして、常にサポートしていただいた松本副部長、それにコミュニティメンバーの皆さん、全体会議で常に知恵とアイデアをかしていただいた自然災害部会の皆さん、コンサルの斉藤さん、あるいは事務局の門間課長を初めとした事務局の皆さん、いろいろと助けていただいたことを感謝し、お礼と同時に、本報告書が、より区民が住みやすい、安全・安心で、生き生きとした形の活動に今後生かされていくことを心から願って、私の報告を終わらせていただきます。

大津委員長 ありがとうございます。では、続きまして、自然災害部会の荒井部長から、今までの審議経過と提言並びに、同じようにフォーラムにおける区民の意見、まとめて御報告をお願いいたします。

荒井委員 自然災害部会の荒井でございます。最初の部分についてはコミュニティ部会と同様でございますので、最初に8ページをおあけいただいて、最初の自然災害についての課題を、No.1からNo.8までのそれぞれの項目について問題提起がありましたので、それについて検討して、提言にまとめたということで御説明させていただきます。

審議課題の選定ということで、自然災害部会では、11ページの(2)ですが、自然災害部会では、風水害や地震災害等の「自然災害」について、災害が発生した場合の対応について検討するというので、テーマを、「いざという時に助け合えるしくみづくり」とするというので、審議を進めさせていただきました。

それで、実際の取り組みについてですが、29ページをおあけください。「いざという時に助け合えるしくみづくり」ということで審議を進めましたが、取り組みの背景として、現状と課題ということで、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、日

本各地に甚大な被害をもたらした。川崎市では、防災を喫緊の課題として捉え、東日本大震災の被害状況を踏まえた新しい川崎市地域防災計画を策定するなど、さまざまな事業に取り組んでいる。また多摩区でも、市の防災計画を踏まえた多摩区地域防災計画を策定し、公助の充実に取り組んでいる。しかし、これらの取り組みが区民に十分には周知されていないのが現状である。

一方、区民は、町会・自治会が中心となって自主防災組織を立ち上げ、避難訓練の実施、避難所運営会議の開催等に取り組んでいる。しかし、1人1人の自然災害に対する危機意識はいまだ高いとは言えず、自助、共助の必要性を理解し、個々の危機意識を高めることで具体的な行動へ結びつけていくことが課題となっているということになりました。

(2)に、取組テーマと目標ということで、テーマはそこにあるとおりでございますけれども、②に目標として、ア、自然災害に関する情報を周知する、イ、誰もが安全に避難所にたどり着けるしくみをつくる、ウ、防災に関して中・高・大学生との連携をはかるという項目にまとめ上げまして、目標として審議してまいりました。

30ページに、市・区を取組との関連ということで、載っております。これについては割愛させていただきます。

33ページに、審議の方向性ということでございます。(1)として、自然災害に関する情報を周知するというところで、大きく2つ挙げました。①が、各家庭の防災意識の向上についてということです。目指す方向性として、家族で防災について話し合う機会を提供するとともに、各家庭が震災時に必要な情報を提示するしくみをつくる。②として、より効果の高い情報提供のあり方についてということで、目指す方向性として、災害時に役立つ具体的な情報を効果的に発信するしくみをつくる。

(2)誰もが安全に避難所にたどりつけるしくみをつくるということで、①として、避難所の周知についてということで、34ページになりますけれども、目指す方向性として、日ごろから、誰の目にも付く場所に避難所名を掲示する。②として、避難所までの行き方についてということで、目指す方向性が、各自が避難所までのルートや危険箇所を把握し、災害時に迷わず安全に避難所までたどり着けるしくみをつくる。

(3)防災に関して中・高・大学生との連携をはかるということで、①が、中・高・大学生の防災意識の向上についてということで、方向性として、中・高・大学生に向けて、防災情報を発信するとともに、地域の防災のしくみを知り、協力できるしくみをつくる。②で、平常時からの中・高・大学生との連携についてということで、日ごろから中・高・大学生と地域が防災に関して連携できるしくみをつくるということで方向性を決めました。

審議経過としましては、35ページから項目として載っております。最初の(1)自

然災害に関する情報を周知するという事で、区民会議フォーラムでの意見を38ページに載せてございます。特に回覧板での情報発信のあり方ということで、提言と関連しないとわかりにくい部分ですけれども、このような項目がございました。それから、38ページの(2)で、誰もが安全に避難所にたどり着けるしくみをつくるということで、川崎市あるいは多摩区が作成している自然災害に関するマップが多々ございますけれども、①として、既存の自然災害関連マップの収集・内容の確認ということで、39ページにも載っておりますけれども、多摩区の防災マップであるとか、洪水ハザードマップであるとか、土砂災害のハザードマップとしてそれぞれございます。A3判1枚という形で載っている関係で、自分の家がわかりにくい項目になっているということがあるわけです。②として、40ページですが、公共施設、危険箇所等の把握ということで、身近な防災マップ下図の作成を行いました。これについては、そこに区民会議フォーラムでの意見ということで、身近な防災マップの作成ということでこのような項目が意見としてございました。

41ページに移りますけれども、(3)として、防災に関して中・高・大学生との連携をはかるということで、大学の防災に関する取り組み事例の収集とかを行いました。また、42ページにございますけれども、明治大学生田キャンパスに建設された大学施設の地域利用に関する覚書ということで、防災施設を備蓄倉庫ですけれども、明治大学の生田キャンパス内に設置していただいて、既にもう利用に供しているところでございます。

43ページに、その他ということで、神奈川県秦野市と東海大学の取り組みを一部載せさせていただきました。

それで、44ページに区民会議フォーラムでの意見ということで、それぞれの項目がこういう意見として出ました。

具体的に自然災害部会での提言ということで、45ページから載っておりますので、45ページに移りたいと思います。

提言1として、自然災害に関する情報を周知するという事で、マグネット方式の「備える。多摩区」というマグネットをつくりまして、これが具体的に家族でしっかり1人1人が防災について考える契機として、また、これを冷蔵庫のドアとか、非常にわかりやすいところに張っておいていただくことで、いざというときに家族みんながどういうふうに行動すればいいのかということを確認しておいたらどうかということになりました。

もう1つ、46ページ、回覧板を活用した防災情報の提供ということで、定期的に各家庭に回ってくる回覧板を、より防災に関する情報提供のすばらしいツールとして使ってはどうかということで御提案がありまして、これについてはここにあるとおり、いろいろ検討を要する部分もございますけれども、実用化に向けていただきたいと思います。

います。

それから、提言2ですけれども、誰もが安全に避難所にたどり着けるしくみをつくるということで、町会・自治会掲示板、川崎市の広報掲示板への避難所の掲示ということで、掲示板の例がございますけれども、この地域での避難所は〇〇小学校ですというような形で、誰もが、そこに行けばいいんだなということがはっきりわかるように掲示をしていったらどうかという提案でございます。

もう1つは、身近な防災マップの作成ということで、先ほど見ていただいたA3判の区1本の防災情報の提供ということではなくて、避難所単位ぐらいの大きさにして、自分の家から避難所までどういうふうに避難すればいいのか、確実に避難すればいいのか、どこに危険箇所があるのか等が、はっきりその地図をもとに各家庭で検討いただけるようなサイズのをしっかりつくって各戸に配布したらどうかという提案でございます。

提言の3ですけれども、防災に関して中・高・大学生との連携をはかるということで、47ページでございますとおり、中・高・大学生の防災訓練への参加、また、中・高・大学生の頭上訓練（HUG等）への参加ということで、具体的に避難所で自分たちがどういう役割を担っていけばいいのかとか、避難所が実際にどういうふうに運営されるのかということを勉強していただく等が必要なんじゃないかという提言でございます。

もう1つ、中・高・大学生向け防災パンフレットの作成ということで、より効果的に学生の皆さんが防災意識をしっかりとっていただけるようなものを作成してはどうかという提案でございます。

以上、3つに大きく分かれての提言でございます。

本当にこの2年間、取り組ませていただきまして、皆さんのほうからすばらしい意見を出していただきまして、このような形にまとめ上げることができまして、本当にうれしく思います。ぜひこれを具体的な形として、区民の防災に役立つ形で実施していただけるようお願いしたいと思っております。

天津委員長 両部会長、報告御苦労さまでございました。各委員におかれましては、それぞれの部会に属して審議、協議、報告書のまとめ、提言を進めてこられたものですから、今までのように個々の部会長の報告なり、提案に対する質疑は割愛します。

### 3 閉会挨拶

天津委員長 総括しまして、全委員に御意見なり、講評なりをお願いしたいと思いますので、安陪委員から順番に。

安陪委員 自然災害部会に所属しておりました安陪でございます。あっという間に2年間たってしまいまして、いろいろな問題提起をさせていただいておりましたけれども、

振り返れば、いつどのようなときに問題が発生するかというようなことも特定できない中で、こういう想定をいろいろな資料をもとにして討議させていただいて、大変迷うこともありましたけれども、皆さんの御意見を聞きながら、よりよい答えを導いていったなと思っております。これもひとえに各委員さんの御指導のおかげだと思っております。ありがとうございます。

荒井委員 私としては、本当にいきなり部会長ということで役をいただいて、その中で、知識のないところを本当に皆さんのおかげでいろんな勉強もさせていただきましたし、また、区役所の職員の皆様と、それからスタッフの皆さんの助けによりまして、何とか形にできたなという思いで、本当に感謝の限りでございます。大変にありがとうございました。

岩崎委員 多摩区・3大学連携協議会から来ております岩崎と申します。自分でも振り返りまして、初めて区民会議に参加させていただいたときには、まだこの先何をどのようにしていけばいいのか、自分でもなかなか展望が描けなかったんですけども、今、荒井部会長からも御報告があったように、大学としては、学生さんを預かっているという立場もあるんですけども、やはり多摩区の中で存在しているということも事実ですので、この会議で自分でも意見を言った記憶があるんですけども、まず地元の方々から災害時にどういうことを求められているのかというようなことを具体的に、私自身も部会を通じて議論を進めていく中で、先ほど部会長からもありました44ページに書かれているような現状ですとか、3大学との連携の方向性、それと昨年11月23日に区民会議フォーラムで御意見が出されたような、ここにある程度概要をまとめられたようなものを、今後具体的にどういうことができるのかというところを自分自身でも詰めていく必要があるのではないかと改めて感じているところでございます。

国保委員 私、医師会の推薦で来ておりますけれども、たちプロジェクト集団みたいな集団は、非常に地域に参加しているようで参加していないということで、今回コミュニティという大変漠として、今、一番大きな問題になっているようなところについて、多摩区の特性をもってこれに対しての提言をするということについては、私、コミュニティ部会の委員の皆さんが大変地域について詳しく、知識も持っていらっしゃるし、活動もされているということに非常に感心しました。

提言にもありますように、最終案までまとめるまでにいろいろありましたけれども、私としては、こういう市民の代表の皆さんの集まる、いわゆる専門部会ではなくて、市民の意見として意見を集約するということは大変難しということで、私もこれに携わりながらいつも考えていたんです。辻野部会長が大変多くの意見を上手に取り

まとめていただいたことに大変感心しております。また、最終提言に持っていくときの最後のまとめでございますけれども、これも大変難しく、抽象的ではっきりしないという面もありますけれども、この文章、石橋副委員長の語彙と文章力でぎっちりつくっていただいて非常に感心しております。私は大ざっぱな人間ですので、細かいことに関しては大変勉強させていただきました。地域のこと、それから会議の皆さんの考えを聞かせていただいて、大変勉強になりました。ありがとうございました。

小塚委員　こども総合支援連携会議のほうから参加させていただいています小塚です。地域の活動やイベントに参加してもらってイベントづくりということで、親子で参加できる場所とか、おじいさんとおばあさんと一緒に参加できる場所というところで、いろんなものができたらいいなと思います。防災に関しても、避難所提示というのが、例えば自宅もそうなんですけれども、居酒屋さんとか、どこへ行ってもそれがわかる場所にあつたらもっといいなと思っています。今までどうもありがとうございました。

辻野委員　先ほど挨拶したのでなんですけれども、私はこの2年間、「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」というテーマで、向こう三軒両隣ということで、皆さんと一緒にやってきました。区民会議の皆さんとの2年間の出会いこそ、まさにその実践ではなかったかと思えますし、逆に言えば、顔の見えるだけではなくて、心も見えて、さらけ出していただいたという形では、まさに見えるだけではなくて、心とも一体になれたという形で、この力をまたさらに広げていければ、よりいい多摩区内の全体が何かつかめるんじゃないかと、そういう夢と期待を抱いているところです。また今後ともよろしくお願ひします。

西山委員　多摩区文化協会の西山でございます。私は、仕事の都合等で休みが多くて本当に申しわけなかったと思うんですけれども、この会に出席しまして、自然災害とかそういうことに関しても随分興味を持つようになりました。文化協会は、結局、歌ったり、踊ったりということがあるので、地域に根ざしていることをまず目的としております。なるべく皆さん一緒に楽しもうということで、文化協会、一生懸命やりましょうということで、人とのつながりを大事にやっております。それでもまだ一部の人にしか伝わっていないんじゃないかと思えます。ですから、お祭りなんかにも積極的に参加して、皆さん来てください、やってくださいというふうに、なるべく皆さんに来ていただけるような、人の輪づくりを一生懸命頑張っています。この部会に出席させていただいてよかったのは、いろんなコミュニティの中でも、こういうことを考えていらっしゃるんだとか、自然災害でも、自分では今まで余り考えていなかったことを教えられたこともあったので、すごく実りのある2年間だったと思います。余り出席できなかったんですけれども、これからもまた頑張っているいろんな場面でやっていきたいと思ひます。ありがとうございました。

配島委員　地域教育会議から参加させていただきました配島です。区民会議に参加し、い

ろんなことを皆さんから学びながら会議に参加できたこと、私にとりましてはとっても有意義でしたし、またこれも1つのコミュニティというか、つながりだったのかなと思います。本当に皆さん、ありがとうございました。

藤原委員 藤原と申します。私は、自然部会に入りまして、いろいろやってまいりました。私は、町会の防火防災部長もやっております、それから南生田小学校とか、生田小学校の避難所運営会議にも出ております、防災のことについていろいろ考えていたわけなんですけれども、この会に入りましてから、災害の想定というのはなかなか難しいなということを感じました。ですから、これからいろいろ対策を立てるとしても、対策についての困難さというのは随分勉強させていただいたということで、この2年間、本当にありがとうございました。

細埜委員 自然災害部会の細埜と申します。私は、登戸土地区画整理事業まちづくり推進協議会から出ているんですけれども、初めは、何で私が出ているのかなとわからなかったんですけれども、生まれも育ちもずっと登戸なもので、コミュニティにしても、自然災害にしても、自分では考えも及びつかないことを皆さん一生懸命協議していただきまして、私たちは全然困ったことも何もないので、大変勉強になりました。

余談になるんですけれども、先日安陪委員さんの登栄会振興商店街と、うちのほうの東通り商店会でまちゼミというのを行ったんです。商店の店主の方が講師になって、その方の得意分野の講義をしたという、まちゼミというんですけれども、17店舗が参加いたしまして166名の参加者、店内でやるのでそれほど大きなゼミ生は募集できないんですけれども、そのアンケートの結果、95%の方が満足と大満足、81%の方が女性、38%の方がマイカー及び公共交通を利用してまで参加してくれたということで、私の例になりますけれども、前々回のときもお話ししました趣味を生かしたということでメダカの講義をしたところ、1カ月前の予約にもかかわらず、キャンセルなし、3分ぐらいおくれた方が1名で、大変好評でよかったと思います。ぜひ地域の市民団体の方と商店街と協力して、もっと続けて盛り上げていきたいと思います。どうもありがとうございます。

本多委員 コミュニティ部会に属しておりました本多と申します。私は、3期からこの区民会議の委員を務めさせていただきまして、この4年間どうもありがとうございました。3期には、コミュニティ交流促進部会という大きなテーマで議論しまして、そのときに、コミュニティを促進するには、場と仕掛けと人材、この3つが必要だということまでは議論して、それ以上は議論できなかったんです。第4期では、コミュニティ部会ということなので、こういった議論の延長というか、そういったことも含めて議論できるのかなと思って期待していたんですが、結局仕掛け、要するにイベントカレンダーをつくらうとか、挨拶運動をしようということで、仕掛けということについてはこの2年間議論できたかなという気はいたしますが、場とか、人材とか、そうい

ったことについては積み残したような気がいたします。ですから、もし第5期がある  
とすれば、そういうコミュニティでの場とか、人材とか、どういうふうにして確保  
し、育成していくのかといったことを議論していただければ非常にありがたいと思  
います。どうも4年間ありがとうございました。

松本委員 コミュニティ部会に属しております松本でございます。私は、町会連合会の推  
薦ということで出ておまして、私のそもそもの問題意識は、最初から何度も話して  
いますが、町会の役員のみならず手が足りない。そのまま何年もやっていると高齢化してい  
く。そうすると、また若手の人たちとの間にギャップが出てくる。そういう問題に直  
面しながらやっています。これは私の町会では顕著ですが、ほかの町会長さんに話を  
聞いても大体似たような状況がある。そうすると、また入ってきにくいということも  
ありまして、何とかもう少し役員になってくれる人、あるいは行事のお手伝いをして  
くれる人、そういう人がふえないかなという問題意識を強く持っております。今度、  
新年度の総会が間もなくあるんですが、ここでも役員の問題がまた、町会の中では議  
論されています。

そういう問題意識の中で、私の中ではこのコミュニティ部会はスタートしたんです  
が、そこに切り込むには非常に大変だと思っています。私の周りには、60を過ぎて会  
社を卒業した人で家にいる人をいっぱい見ているんですが、声をかけてもなかなか出  
てきてくれません。特にサラリーマンの人たちは組織に属したくないような意識がと  
ても強いみたいです。今、本多委員が言われましたように、私としてはこの問題は非  
常に大きな問題と思われまます。5期、6期、あるいは継続的に議論していただきたい  
し、少しずつでも目に見えるものの提案をするように続けていただきたいと思っ  
ております。

私は、町会を考えると、今回の提言は具体的な形での成果はあまりなかったんです  
が、ただ、何かの場に出てくるということが非常に大事なので、そういうことをきか  
つに、また地域のことに目を向けてもらえればとてもうれしいと思います。

それから少し違うんですが、自然災害部会でいろいろ検討していただいたことにつ  
いては、私は町会長として、自分でもやらなければいけないこともあるなと考  
えました。行政のほうでいろんなことを言うてくるんですが、行政は自主防災組織とか町  
会・自治会ではやっているだろうということで、行政のほうは終わってしまっている  
んですが、現場のほうは、なかなか動かないし、動かすのも大変だということ  
があります。提言で、1つでも、2つでも進められれば良いと思います。もし行政の  
ほうでできないということであれば、自分の町会で何とかやってみたく  
思います。そういう意味では、自分自身に対して、今回の区民会議の参加は、これ  
からどんなことをしていこうかということについて非常に参考になった場であり  
ました。本当に皆さんに感謝したいと思います。どうもありがとうございました。

吉田委員 自然災害部会に属しております吉田でございます。2年間、10名の皆さんと一生懸命時間をかけてまとめたものでございます。私自身としては、この提言が素晴らしいものだと思っておりますが、ぜひ提言を本当に役立つ形としてやっていただければ、これから進めていただければ、1つでも役立てていただければいいなと思っております。提言だけでおしまいにならないでやっていただければと思っております。2年間、本当に皆さん、ありがとうございました。

大津委員長 各委員、ありがとうございました。一言言い忘れたという方はいらっしゃいませんか。よろしいですか。

それでは、毎回のように全体会に御参席いただきました参与のお二方に一言ずつ御講評なり御意見を賜りたいと思います。河野参与からお願いいたします。

河野参与 皆様、こんばんは。参与の河野ゆかりでございます。第4期の多摩区区民会議委員の皆様は2年間、そして3期からというお声もあって、4年間、本当に有意義な会議の語らい、大変にありがとうございました。参加させていただいておまして、大変勉強になりました。本日も、最終の報告があったんですけども、自然災害部会は、「いざという時に助け合えるしくみづくり」、そしてまたコミュニティ部会では、「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」という中で、先日、実は3・11から3年を迎えたという中で、釜石の奇跡を呼んだという群馬大学の片田教授のお話を聞いたんですけども、いわゆる釜石の奇跡を呼んだその陰には、例えば防災教育をすごくやったというそれではないというお話だったんです。防災教育は、災いを教える教育だったり、何メートルの津波が来たらこんなふうになるという知識教育では奇跡は呼ばなかった。何が大事だったかという、釜石が大好きだ、釜石に住み続けたい、その中ではこうするルールを守るんだという、災害なんかで死んじゃいけないということを教えたから釜石の奇跡、いわゆる小中学校、学校にいた子は一人も亡くならなかったという奇跡を生んだという大変感動的な講演を伺ったんですが、ここに集われた第4期の20名の皆様方も、多摩区の地域が大好きだというその思いの中から、それぞれの会議を盛り上げてくださり、それぞれコミュニティでは大きな4つの提案で、自然災害部会でも3つの提案が生まれてきたと感じました。議会においても、この貴重な大好きだという多摩区を大切にしたいという思いの中から生まれたこの提案、さらに充実したものにできるといいなと感じました。大変にありがとうございました。

露木参与 皆さん、こんばんは。露木明美でございます。私も、前回出たのが11月、その間、すごくあっという間に提言がしっかりまとまっていたので、これまでいろいろな活動、特に部会での精力的な活動がすばらしかったんだなと思います。今、河野さんからもありましたように、本当に皆さん多摩区のためにいろいろな論議を深めていただいて、多摩区といっても、先ほどの地図などを見ても、山がちのところと平地のと

ころでは、一口に言っても自然が全然違うということで、地域性やコミュニティの人間関係も大分違うんじゃないかなど。新しい地域もあれば、昔からずっと続いている地域もある、さまざまな地域の中で1つの提言にまとめていったということで、皆様のエネルギーがすばらしかったなと思いました。

川崎市も先日、健康福祉委員会では、川崎市の地域福祉計画がこれから新しいのをつくっていくという段階に入っていこうとしておりますけれども、さまざまな方々がお互いに助け合って、豊かに、そしてこれからもずっとずっと安心して暮らしていきける町にしていくためには、その中で1つ私が思ったんですけれども、その計画が示される中には、自助、共助、公助というのがずっと言い続けられていましたけれども、1つ互助というのが入ってきたと。お互いに助ける、互助会の互助ですよ。4つの助ける、自助、公助、互助、共助ということで、本当にお互いに助け合っていかなければいけないということが、強くこれからも叫ばれていくのだなと思いました。そして、皆様がまとめてくださった中にも、そういったことがにじみ出ているなと思いましたので、この提言をまとめるということですので、これからは具体化といいますか、実際に皆様で行動も起こしていきながら、具体的な展開が図られるといいかなどと思って、私も参考にさせていただき、一緒に取り組みたいと思います。

きょうは2年間の最後なんですか、まとめということで、本当にお疲れさまでございました。

大津委員長 参与のお二方、ありがとうございました。では、きょう報告書がまとまったものを確認したわけですが、まだ正式に区長にはお届けしていませんが、せっかく御参席ですので、区長から、講評を含めて一言いただければと思います。

区長 皆さん、こんばんは。平成24年の8月からだと思いますけれども、本当に長い間ありがとうございました。夜のこの時間ということで、大体6時からやられていることが多かったと思いますけれども、部会のほうも熱心にやられまして、また部会のほかにも、ここには出ていない打ち合わせ等をやられているお姿を見まして、本当にありがたい気持ちでいっぱいでございます。非常に重要なテーマであります「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」と、それから、「いざという時に助け合えるしくみづくり」というのは普遍のテーマといいますか、本当に大事なテーマを扱っていただきまして、感謝申し上げたいと思います。

また、3月28日に正式に報告書を提出いただけるということでございますので、そちらを真摯に受けとめて努力してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それから、実は私が区長になりまして、皆様と一緒に歩んできたわけですが、また来期、平成26年度から第5期が始まります。また各団体の方に御推薦をお願いすることになるかと思っておりますけれども、それにつきまして、今まで区民会議は2期

までという内規を設けておったんですけれども、今それについて検討しているところでございまして、場合によってはまた続けていただいてもいいというようなことを、嫌とおっしゃる方もいらっしゃるかと思いますが。というのは、先ほども出ておりますように、テーマにつきまして、やはり一部の方かもしれないですけれども、テーマの継続性とかそういうものも重要だろうとか、委員さんも、せっかくやられて、もうちょっとやりたいという御意見の方もいらっしゃると思うんです。ですから、その辺をうまく組み合わせるような形を構築したいと思っておりますが、いずれにしても、今の段階でお示しできなくて残念ですけれども、4月にははっきりさせまして皆様に御依頼したいと思っておりますので、何とぞまた御協力をいただきたいと思っております。本当に2年間ありがとうございました。

大津委員長 池田区長から、爆弾的な御発言があつて、ひょっとしたら、しめたという委員もいらっしゃるかもしれません。

それでは、正副委員長から御挨拶させていただくことにしまして、石橋副委員長からお願いします。

石橋副委員長 副委員長を仰せつかっておりました石橋でございます。私は、両方とも関心がありましたものですから、両方の部会に参加させていただきました。区長の後に感想となると、だんだん総括になっていきますけれども、今回はいやに段取りが違うなど感じております。

私たちが始まったのは、ちょうど平成23年3月11日から1年と4カ月後からスタートしたわけですけれども、「顔の見える地域に根ざした『絆』を構築する」もそうですし、「いざという時に助け合えるしくみづくり」も、互いに顔が見えない限りは何も作動しないんだなということを、この2年間で感じました。顔が見えなければ絆というものも生まれませんし、絆だけが生まれることはないと思っております。この2年間、やはり概要版に書いてあります5つの指標で検討しという、この5つを常に肝に銘じながら、皆様と一緒に協議させていただきました。その中で、大学はやはり学生を守ることがまず第1だということ、当たり前のことを学ばせていただきました。何かしてもらえということではなくて、住民側から、こんなことで困っているからこういうことを検討していただだけませんかという、こういう姿勢が大切なんだなと。これはほかの場面でも言えるのではないかと思います。要は、一方から見たらそうかもしれませんが、他方から見たら違うんじゃないかというようなことを気づかせていただきました。

先ほど、委員の皆さんの感想の中で、国保先生から大変なお褒めの言葉をいただきましたけれども、やっぱりどうも、私は障害者の団体を率いていまして、いろいろな法律に出くわすことがこの4年間はずっとそういうことと携わっていますと、言葉の解釈一つ変わると、とんでもないことになるんだなということを肌で実感しております。

したものですから、そんな発言をさせていただきました。皆様の御協力をいただきまして、本当にありがとうございました。

戸高副委員長 コミュニティ部会のほうへ参加させていただいておりました。副委員長をさせていただいておりました戸高でございます。本当に未熟ながら副委員長という大役もいただきながらのコミュニティ部会での皆さんとの意見交換も進めて、参加させていただいていたんですけれども、両部会の皆さんから、本当にお1人お1人から、この区民会議に参加されて、御自分の活動に対しても、今振り返った言葉をいただいたことで、区民会議の中で、お仕事も地域の活動も忙しい皆様が、それぞれの持っていらっしゃる情報とかお考えとかを皆さんで討議し合って、充実したこの2年間になったのではないかということを、きょう実感させていただきました。副委員長としてここに座らせていただいて、こういう御挨拶する場もいただきましたけれども、ここにこうやって皆さんと一緒にまとめられた提言が、また多摩区の中で生かしていただけることを本当に望んでおります。

それぞれ皆さんおっしゃってましたとおり、私も地域で自分が感じていることを、少しずつ身近なところから実践して、広げていけたらと思います。ふだんの活動の場でも、いろんな方と出会えることができますけれども、こうして2年間皆様とここでいろんな意見を闘わせ合いながら、提言までつなげてこられたことが大変ありがたい経験をさせていただいたと思っています。ありがとうございました。

大津委員長 非常におっちょこちょいの委員長の天津でございます。私のもとには、多摩区社会福祉協議会からの推薦ということで参っております。部会としては、コミュニティ部会に属させていただきました。2年弱の間いろんな議論をし、また本多委員のお話のように、私も第3期、同じくコミュニティ交流促進部会におりました。尽きない課題であったと思います。私の言葉で申し上げたら、言うまでもなく、絆、人の輪、地域の連携というものをどうしていくかと。区民会議における提言は、それなりの方向性をまとめていただけたと思っています。

それから、自然災害部会のほうですが、先週、日本赤十字神奈川県支部の評議員会がございまして、私出席してきました。御存じのとおり、日赤神奈川県支部長は黒岩知事でございます。最後に、知事の言葉ではありませんが、全体の中で、あと半年早くあったらよかったなと思ったものがあります。日赤がおつくりになられた一種の映画といいますか、OHP的なんですけれども、動く動画なんです。減災、減らす災害、もはや防災という言葉は日赤の世界では使っていないんです。それがすばらしいものになっていまして、既に市を通して区の行政側にもそのネタ本とか情報提供が来ていると思います。たしか40分ぐらいかかると思うんですが、私たちは時間がなかったんで10分ほどだったんですが、あれは見応えがあります。減災ですから、自助、共助の段階です。まず、自助をなささいということをあのフィルムは言っています。で

すから、なるべく早い機会に皆さんも、多分行政が借り出して披露してくれると思いますので、ごらんになられたらよろしいかと思います。

まとめまして、2年間、こんなつたない私ですが、両副委員長のサポートを受けながら、また、非常にすばらしい発想の皆さんと一緒に協議できたことを、まことにうれしく思っております。また、少しきざな言い方になりますけれども、この縁があった20名の我々委員は、委員を終えた後も、地域なり、地元なり、団体の中で、区民会議で苦労して、あるいは意見を交換したんだということで、行政が改めて提言を受けとめていただいて発動されるであろう諸施策なり、方向性とか計画については、積極的に参加して、我が身の行動だという理解でいきたいと思います。皆さんもぜひそのつもりで、私もやっていきたいと思います。ありがとうございました。

今、井口参与がお見えだそうで、報告は終わってしまったんですが、第4期区民会議についての講評なり、御意見を賜りたいと思います。お願いします。

井口参与 遅くなって本当に申しわけありませんでした。よもやこういう時間とは思わずに大変失礼いたしました。長い間、皆さん御苦労さまでございました。改めてこれを見させていただきまして、私たちもぜひ皆さんの声をしっかり受けとめた議会活動を頑張りたいと思います。どうぞこれからも御活躍いただきますよう、心からお願ひ申し上げ、御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

大津委員長 委員長から、最後に言い忘れたこと。先ほど辻野部会長の言葉にも既にございましたけれども、ここに至るまで、特に事務局の担当の課長なり、職員の方、それから御関係の各位、書き物、書類、最終的にはこの報告書にまとめ、大変御尽力願ったことに厚く厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

では、これで事務局にマイクをお返しいたします。

事務局 本日の議題は以上ですので、これで2年間の第4期区民会議を終わります。大変ありがとうございました。

大津委員長 それでは、第4期の区民会議はこれをもって閉会、第7回の全体会は終了といたします。大変お疲れさまでございました。（拍手）

午後7時15分閉会